

SOPHIA U

## 2023年度春学期 大学授業アンケート集計・分析結果報告



2023年10月  
上智大学 FD委員会

## ○実施概要

### 目的

- 上智大学は、2021年度に教育に関する質保証体制を整備し、その一環として「大学授業アンケート」を実施することになりました。
- 2022年度から共通の設問によるアンケートを実施し、全学的な集計及び分析が可能となりました。また当該アンケート結果を広く開示し、各授業の改善に生かすだけでなく、上智大学の未来を考えるために活用していきます。

### 2023年度からの主な変更点

- 授業外学習時間の選択肢の改訂
  - ✓ 改訂前：①0～0.5 時間、②0.5～1 時間、③1～1.5 時間、④1.5～2 時間、⑤2 時間以上
  - ✓ 改訂後：①1 時間未満、②1 時間以上～2 時間未満、③2 時間以上～3 時間未満、④3 時間以上～4 時間未満、⑤4 時間以上
- 授業推奨度（11段階）の設問を廃止し、授業満足度（5段階評価）の設問を新設
- 自由記述が「授業推奨度の理由」から「良い点」、「改善点」を問うものに変更

## ○実施概要

### ● アンケート実施時期

- 1Q開講科目 2023年5月16日（火）～6月1日（木）
- 2Q/春学期開講科目 2023年7月10日（月）～7月28日（金）

### ● アンケート実施方法：Loyolaアンケート機能

### ● 2023年度春学期大学大学授業アンケート結果の活用

日程	実施内容
2023年8月～	・ Loyolaにて各授業科目の回答結果を各学部・主担当教員に開示
2023年9月	・ アンケート集計・分析結果を審議、検討（FD委員会） ・ 各学部にアンケート回答（自由記述含む）に基づく各授業における検討課題を報告、改善を依頼 ・ 大学授業アンケート集計・分析結果報告会を実施（全学FDセミナー）
2023年12月	・ 「学生が選ぶGood Practice」の対象科目を選出し、担当教員を表彰予定

## ○【参考】アンケート設問項目

- 設問1 この授業における教員の説明はわかりやすかった。
- 設問2 この授業に対する教員の意欲を感じた。
- 設問3 教員との質疑応答や教員からのフィードバックの機会があった。
- 設問4 学生同士で議論を行ったり、プレゼンテーションをしたりする等のアクティブ・ラーニングの機会（オンライン掲示板等含む）があった。
- 設問5 学修した内容が在学中もしくは卒業後にどのように応用されるかを学ぶ機会があった。
- 設問6 知識を相互に結びつけることにより、多様なものの見方や考え方が身につく授業だった。
- 設問7 他者や自分の意見を十分に吟味して客観的・論理的に思考する力（クリティカル・シンキング）が身につく授業だった。
- 設問8 私はこの授業で主体的に（自分なりの目的を意識して持続的に）取り組んだ。
- 設問9 シラバスで示されたこの授業の到達目標が身についた。
- 設問10 この授業を受けて知的に刺激され、深く勉強したくなった。
- 設問11 この授業1回に対して授業時間外に費やしたすべての時間（友人との意見交換、参考図書の本読等も含む）は、どれくらいですか。
- 設問12 この授業の満足度を教えてください。
- 設問13 この授業の良い点があったら教えてください。（自由記述）
- 設問14 この授業の改善が必要と思う点があったら教えてください。（自由記述）

## ○アンケート集計・分析対象科目、回答数、回答者数

- 2023年度春学期開講科目数：2,660科目
- 大学授業アンケート対象科目数：**2,335**科目
- 回答数：**51,215**件（延べ回答数）
- 回答者数：**9,588**名（学部生の**約79.5%**相当）

\* 学籍状態が「在学」の学生（12,504名が対象：2023/9/29現在）

\* 1クォーター、2クォーター、春学期科目が対象



## 回答結果の集計・分析を実施

\* 集計・分析対象科目数：**2,201**科目（受講者0名、回答者0名科目を除く）

## ○集計・分析結果

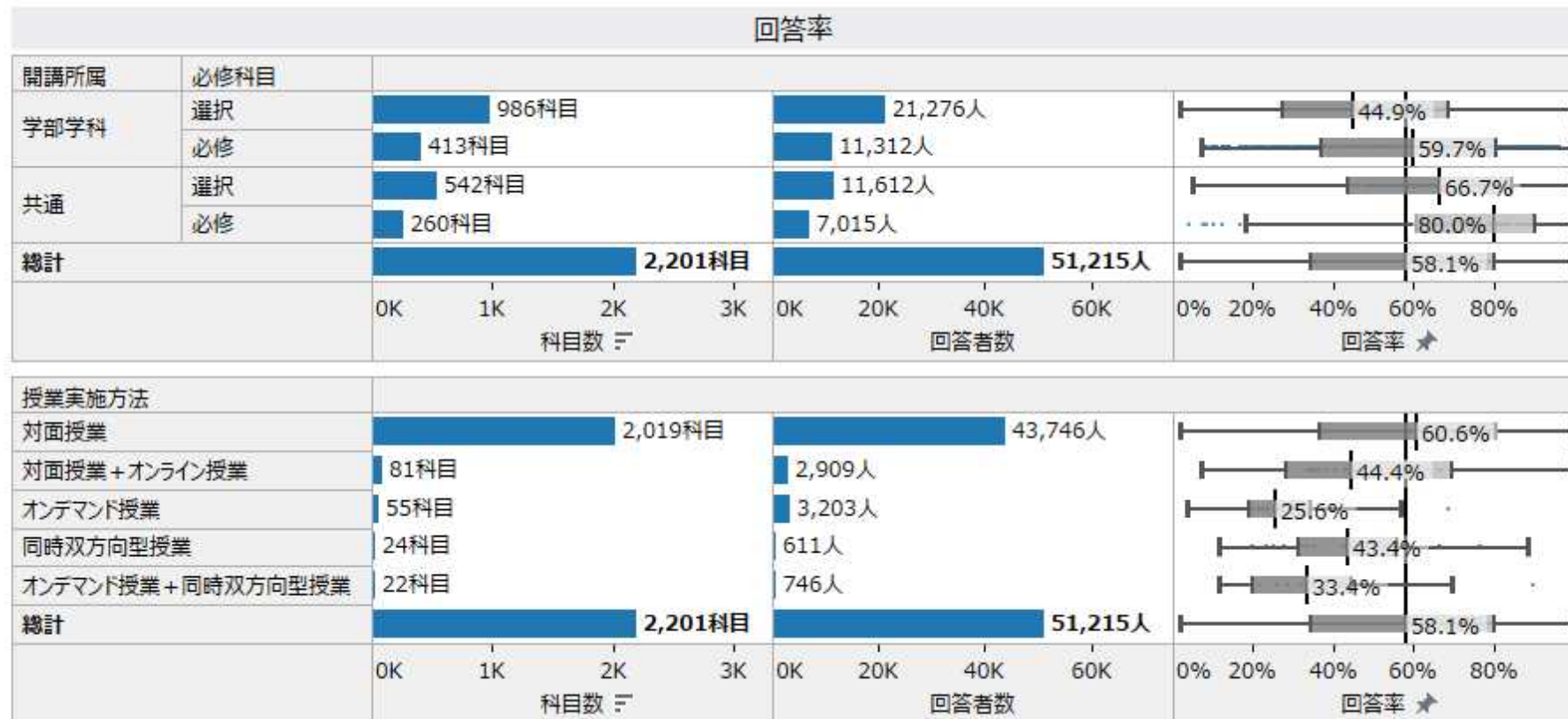
集計・分析結果の概要は下記の通りです。

	概要	詳細
1	学部学科科目は開講所属によって回答率に差がみられます。受講者数、回答者数と回答率との間は無相関という傾向がみられます。	選択科目より必修科目のほうが、学部学科科目より全学共通科目のほうが、オンライン授業より対面授業のほうが回答率が高くなっています。
2	「教員の意欲」は、概ね高評価という傾向がみられます。	「フィードバックの機会」、「アクティブ・ラーニングの機会」は授業間のバラツキが大きくなっています。「フィードバックの機会」は開講所属間の差より授業間の差のほうが大きく、「アクティブ・ラーニングの機会」は授業間の差も開講所属間の差も大きくなっています。
3	共通科目か学部学科科目か、また必修科目か選択科目か、による授業外学修時間での差はない傾向がみられます。	国際教養学部の授業外学修時間が長くなっています。
4	必修科目より選択科目のほうが、学部学科科目より共通科目のほうが授業満足度が高い。授業満足度の低い学部がある。	決定木分析によると、授業満足度には「設問1 教員の説明はわかりやすかった」の要因のみが起因しており、重回帰分析によると、授業満足度は設問1と設問10「この授業を受けて知的に刺激され、深く勉強したくなった」の影響が大きくなっています。
5	設問8「私はこの授業で主体的に（自分なりの目的を意識して持続的に）取り組んだ」、設問10「この授業を受けて知的に刺激され、深く勉強したくなった」授業が到達目標の修得に重要であるという傾向がみられます。	設問9「シラバスで示されたこの授業の到達目標が身についた」を目的変数とする決定木分析の結果から左記の傾向がみられます。

## ○集計・分析結果

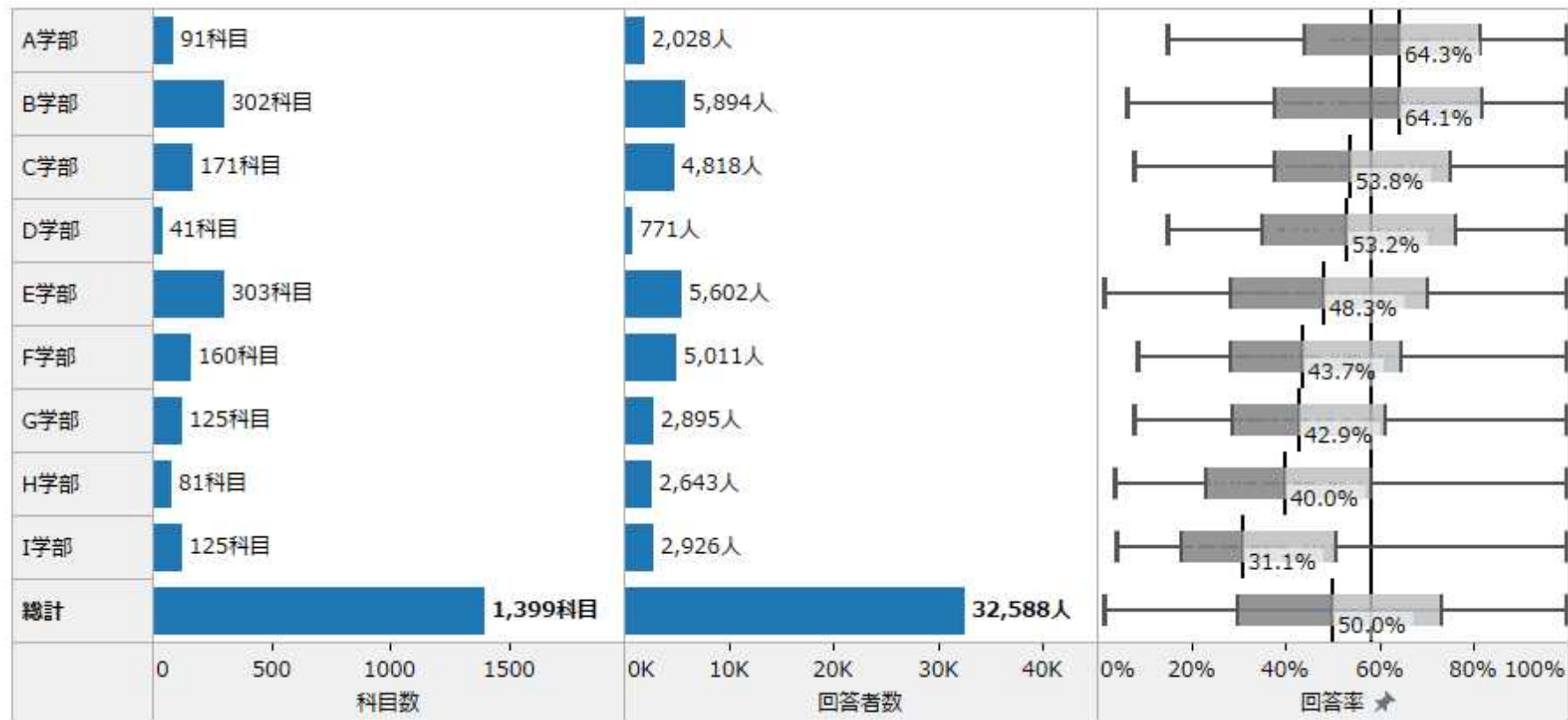
概要	詳細
<p>設問の回答パターンのより、以下の5クラスタに分類されます。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) <b>高評価クラスタ</b> = 全ての評価が高く、授業外学修時間が長い授業</li><li>2) <b>授業内完結型クラスタ</b> = 高評価だが、授業外学修時間が短い授業</li><li>6) 3) <b>座学型クラスタ</b> = フィードバック、アクティブ・ラーニング、授業外学修時間の少ない授業</li><li>4) <b>AL特化型クラスタ</b> = アクティブ・ラーニング (AL) の評価が高く、他の評価が平均的な授業</li><li>5) <b>低評価クラスタ</b> = 授業外学修時間は平均的だが全ての設問の評価が低い授業</li></ol>	
<p>7 自由記述の分析を各クラスタと対応させ、分析を行いました。</p>	<ol style="list-style-type: none"><li>1) <b>高評価クラスタ</b> = グループディスカッションの機会が多い</li><li>2) <b>授業内完結型クラスタ</b> = 自分で考える機会やフィードバックの機会が多い</li><li>3) <b>座学型クラスタ</b> = 教員が学生のリアクションを見ながら講義を行っている</li><li>4) <b>AL特化型クラスタ</b> = 他の学生と会話をする機会が多い</li><li>5) <b>低評価クラスタ</b> = テストや課題の方法などの再検討が必要か</li></ol>

- ・ 選択科目より必修科目のほうが、学部学科科目より全学共通科目のほうが、オンライン授業より対面授業のほうが回答率が高い

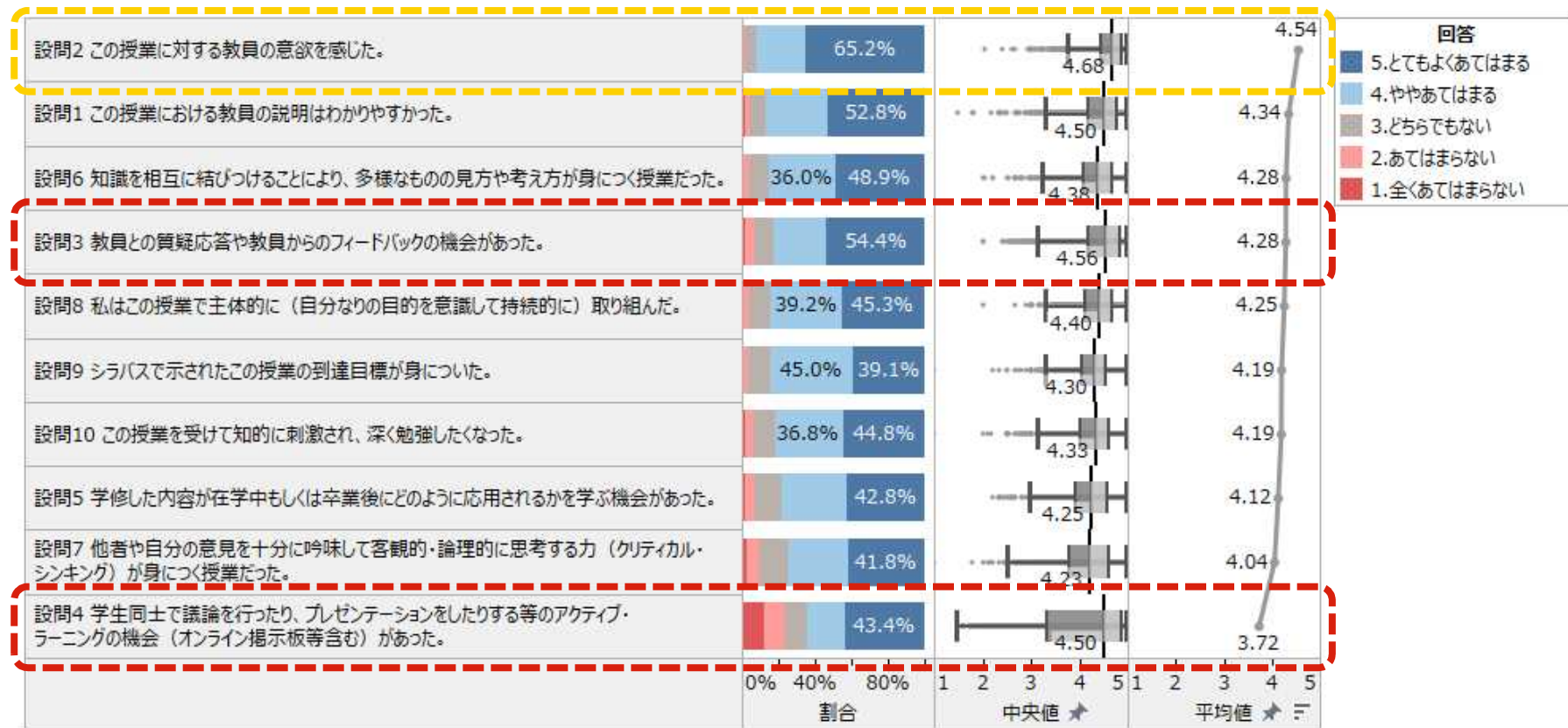




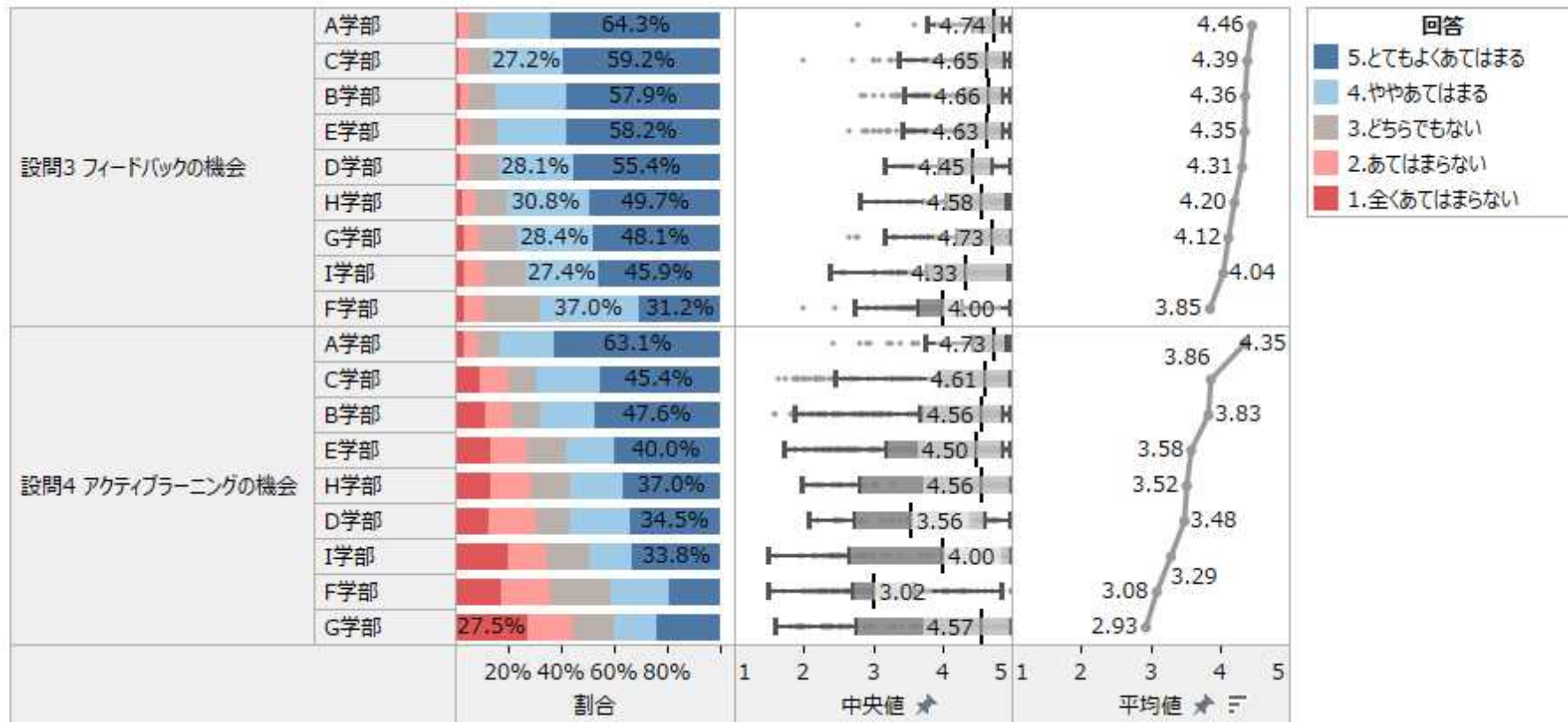
・学部学科科目は開講所属によって回答率に差がある



- ・「教員の意欲」は概ね高評価
- ・「フィードバックの機会」「アクティブ・ラーニングの機会」は授業間のバラツキが大きい

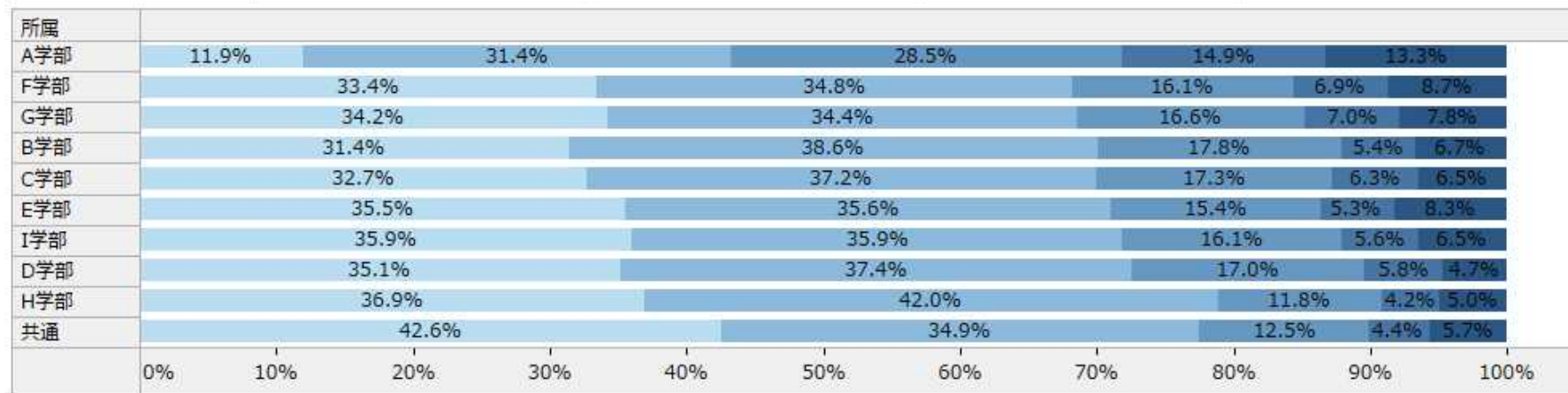
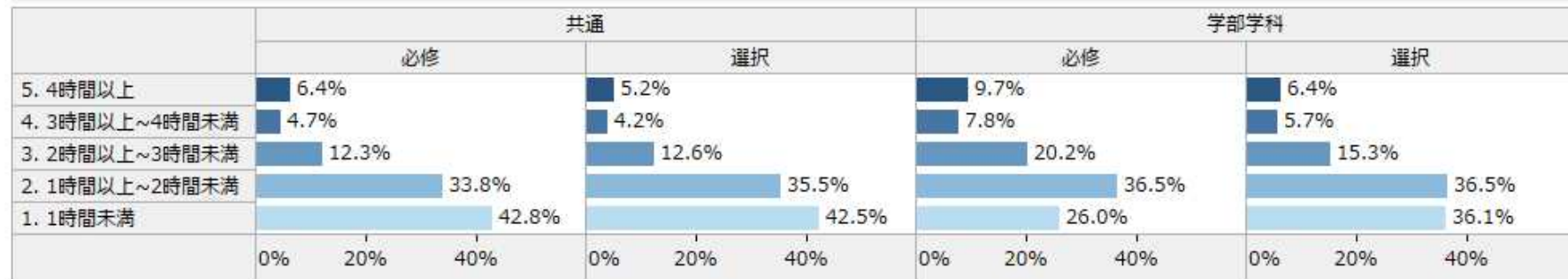


- ・「フィードバックの機会」は開講所属間の差より授業間の差のほうが大きい
- ・「アクティブ・ラーニングの機会」は授業間の差も開講所属間の差も大きい



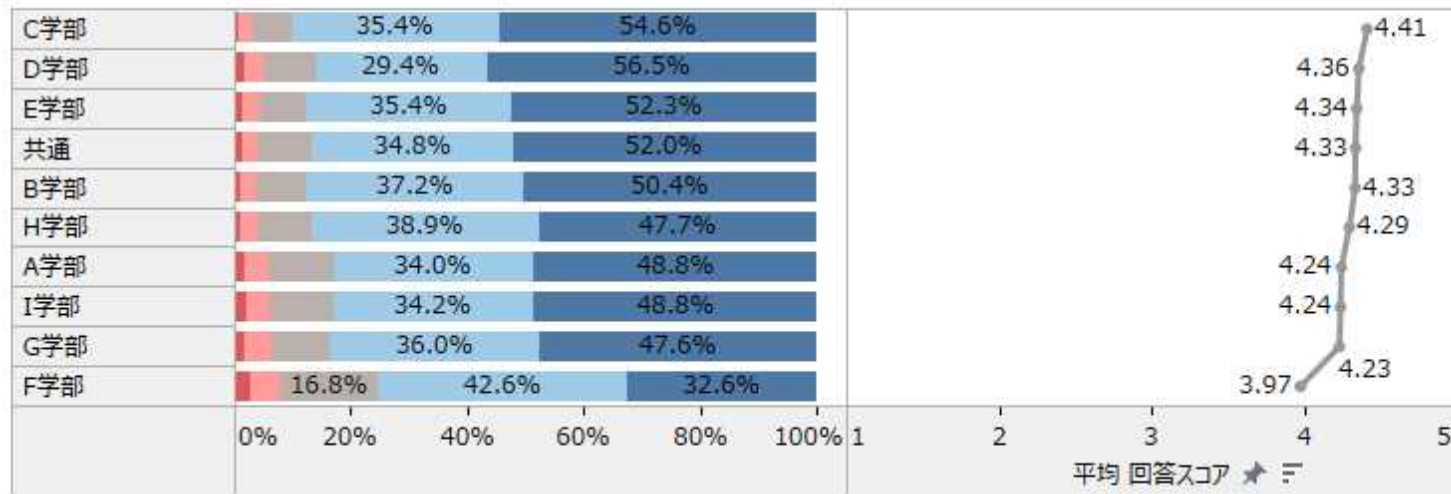
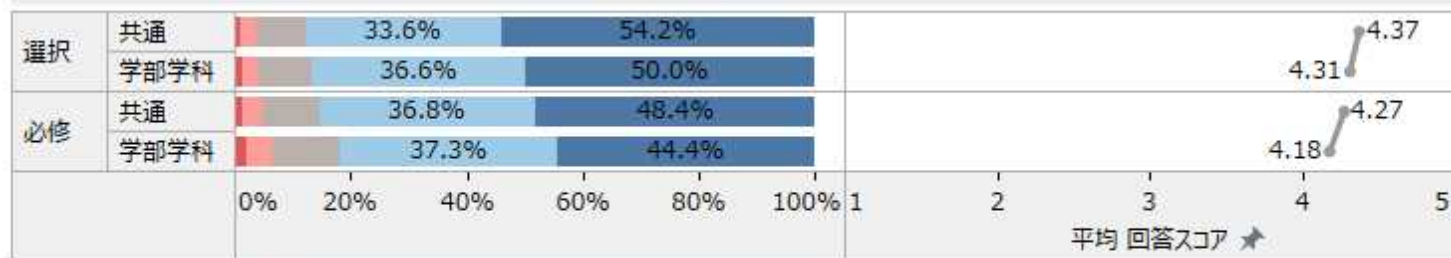
- ・ 共通科目か学部学科科目か、必修科目か選択科目かで授業外学修時間に差はない
- ・ 開講所属ごとにみると授業外学修時間が長い学部もある

設問11 この授業1回に対して授業時間外に費やしたすべての時間（友人との意見交換、参考図書の精読等も含む）は、どれくらいですか。

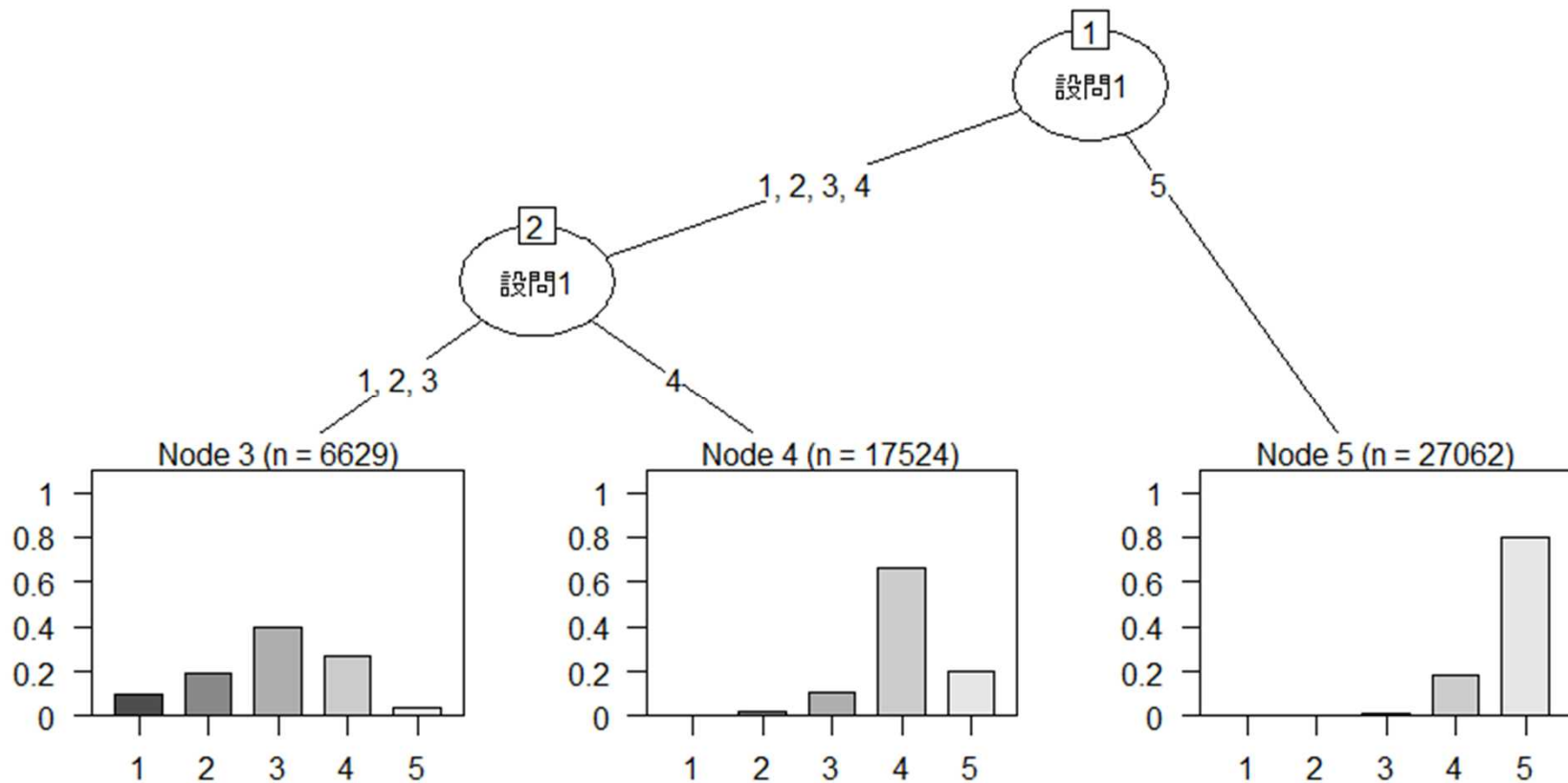


- ・ 必修科目より選択科目のほうが、学部学科科目より共通科目のほうが授業満足度が高い
- ・ 授業満足度の低い学部がある

設問12 この授業の満足度を教えてください。



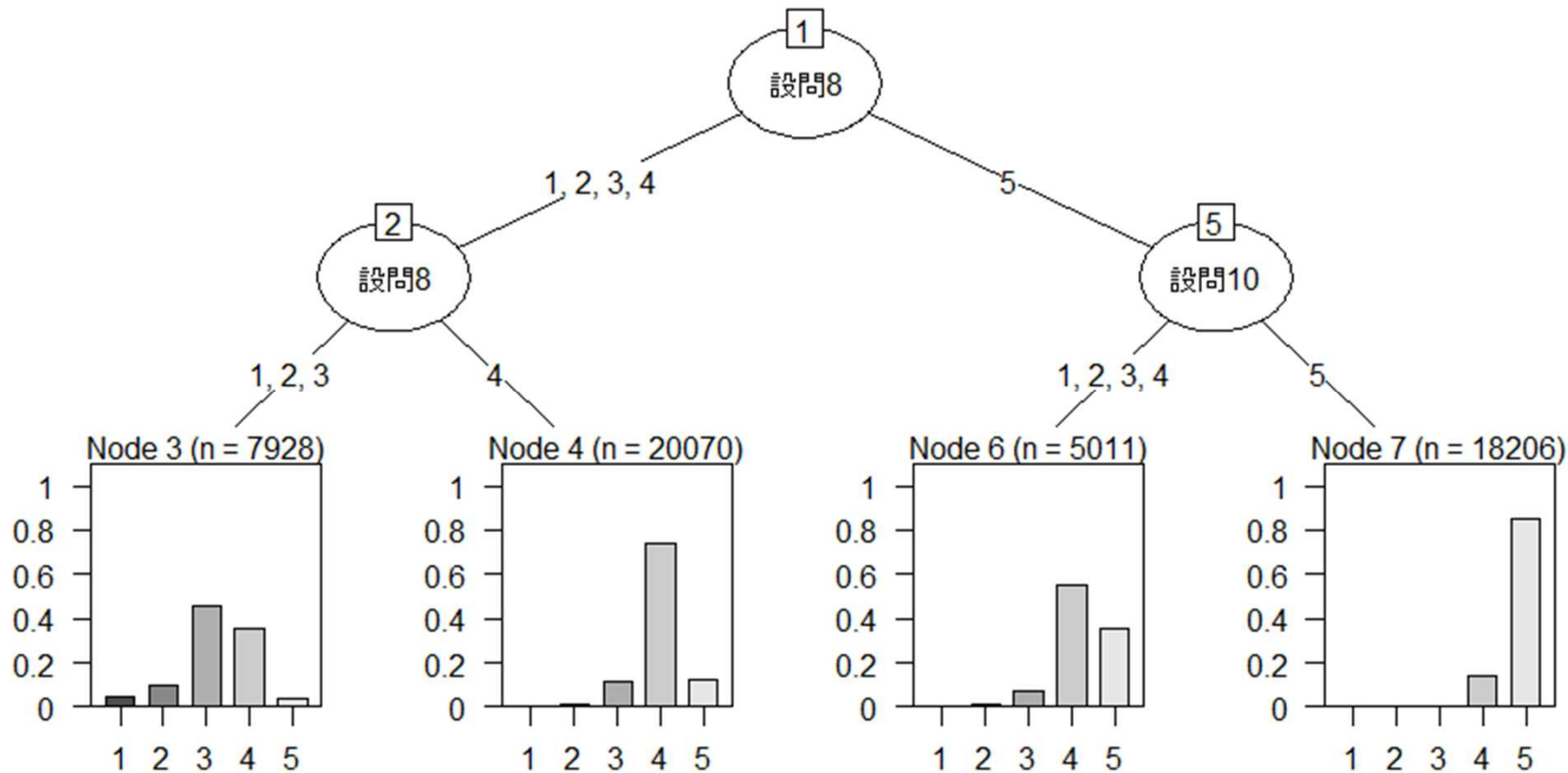
- 授業満足度を目的変数とする決定木分析を行うと、  
設問1「教員の説明はわかりやすかった」の要因のみが効いている



- ・ 授業満足度を目的変数とする偏重回帰分析を行うと、  
設問1のほか、設問10の偏重回帰係数も大きい（影響が大きい）

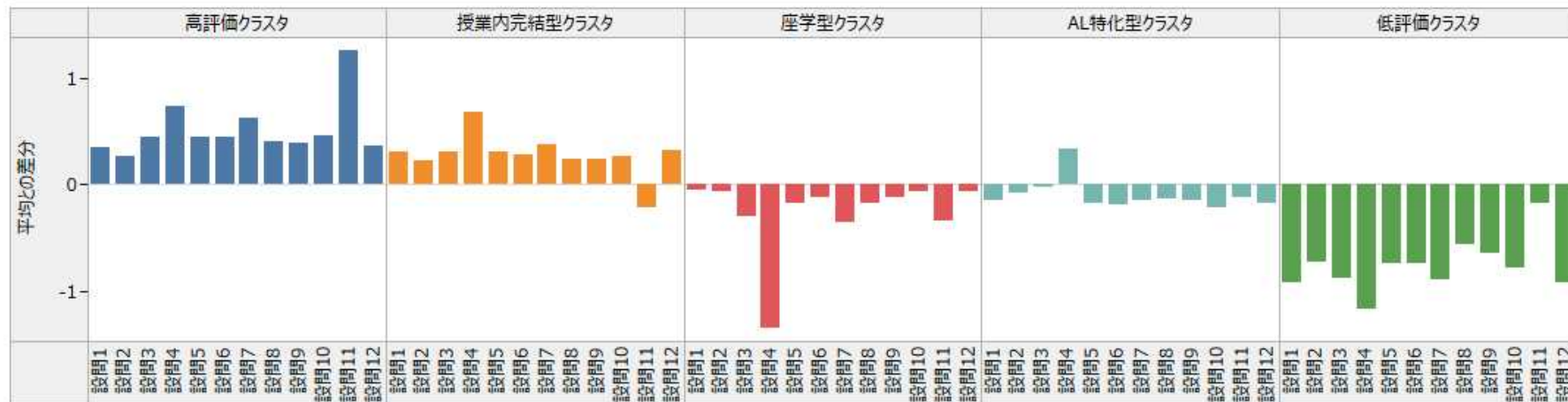
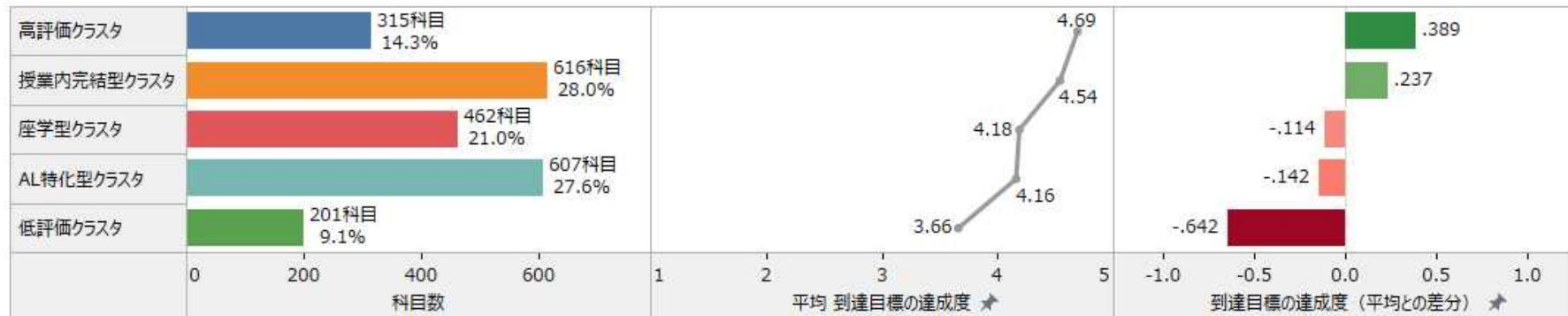
重回帰				
	Estimate	Std. Error	T Value	Pr(> t )
(Intercept)	.000	.003	.000	1.000
設問1 この授業における教員の説明はわかりやすかった。	.352	.004	91.590	.000
設問2 この授業に対する教員の意欲を感じた。	.104	.004	29.310	.000
設問3 教員との質疑応答や教員からのフィードバックの機会があった。	.034	.003	10.710	.000
設問4 学生同士で議論を行ったり、プレゼンテーションをしたりする等のアクティブ・ラーニングの機会があった。	.004	.003	1.400	.162
設問5 学修した内容が在学中もしくは卒業後にどのように応用されるかを学ぶ機会があった。	.032	.004	9.030	.000
設問6 知識を相互に結びつけることにより、多様なものの見方や考え方が身につく授業だった。	.071	.004	17.390	.000
設問7 他者や自分の意見を十分に吟味して客観的・論理的に思考する力が身につく授業だった。	.018	.004	4.790	.000
設問8 私はこの授業で主体的に（自分なりの目的を意識して持続的に）取り組んだ。	.069	.004	18.480	.000
設問9 シラバスで示されたこの授業の到達目標が身についた。	.097	.004	24.150	.000
設問10 この授業を受けて知的に刺激され、深く勉強したくなった。	.235	.004	58.390	.000
設問11 この授業1回に対して授業時間外に費やしたすべての時間は、どれくらいですか。	-.036	.003	-13.870	.000

- 設問9「到達目標の習得度」を目的変数とする決定木分析の結果、主体的に取り組み（設問8）、知的に刺激された（設問10）授業が到達目標の習得に重要





# ・設問の回答パターンによって5クラスタに分割







上智大学  
SOPHIA UNIVERSITY

FOR OTHERS, WITH OTHERS